



鶺鴒つうしん

岐阜

岐阜ダルクニュースレター平成24年冬号(38号)



「共感する力」 ダルク後援会 斎藤幸二

聖書を読んでいると、「イエスは深く憐（あわ）れみ・・・」という言葉が良くていきます。病気の人、愛する者を失った人、苦しみ悩んでいる人を憐れみ、時に涙を流されたのです。そして奇跡によってその人々を救います。しかしどんなに奇跡を行う力があっても、苦しむ人に対する憐れみの心がなかったら奇跡は起こらなかったでしょう。

「憐れみ」という言葉は、英語ではコンパッションといいます。それは「共に苦しむ」という意味です。心だけの同情ではなく、苦しむ人の苦しみを一緒に背負う、という意味があります。私たちがどんなに裕福になり、幸せになっても、他の人の苦しみに共感する事ができなかつたら、それは人間として不完全だと思います。しかし、共感する事、他者の苦しみを感じ取る事はとても難しい事です。「悩む力」という本がありました。私たちは「共感する力」を持ちたいと思います。

ダルクに通うメンバーたちも苦しんでいる人たちです。彼らは「しょうがない人たち」ではなく、リストカットを繰り返し、自殺未遂を起こすなど、生きることに悩み、苦しんできた人たちです。傍観者や批判者ではなく、私たちがどうしたらその重荷を分け合うことができるのかを一緒に考えてゆきたいと思います。

仲間の体験談

ゆうや



薬物依存症のゆうやです。ダルクで生活するようになって12ヶ月が過ぎました。

僕が初めて薬物を使ったのは15歳の時でした。その時使った薬物はガスでした。その頃すでにお酒を飲んでいて気分が変わる楽しさを知っていたのでガスを吸ってみました。そのうちガスがシンナーへと変わりました。しかしそれほど「はまる」事はなくたまに使う程度でした。19歳の夏に友達の家遊びに行ったら友達が覚醒剤を使っていました。シンナーにははまらなかったし、大丈夫だろうと思い使ってみました。すぐにはまりました。自分でお金を出して買うようになりました。覚醒剤を使い朝まで遊び2,3日寝ずに仕事に行きました。フラフラになり仕事を休んで丸一日寝るとい生活になりました。働くことをしなくなり家で覚醒剤を使い続けました。人に会うのが嫌になり風呂にも入らなくなりました。出掛けるのは覚醒剤を買いに行く時だけになり、人に会うのは売人と覚醒剤ほしさに会いに来る薬友達だけになりました。胃が痛くなりました。痛いので覚醒剤を使い続けたら十二指腸に穴があきました。その痛みを感じることもできなくなり貧血で歩けなくなりました。覚醒剤を使っていることがばれると思って病院に行くことも出来ませんでした。トイレで気を失って所を家族に発見され病院に運ばれ検査をするとC型肝炎になっていました。僕は覚醒剤を使った事を言う事が出来ませんでした。高い治療費を親にだして貰い罪悪感に襲われ、もう覚醒剤はやらないと自分に誓いました。病気の僕はしばらくすると再び覚醒剤を使っていました。また使い続け快楽に溺れました。そんな自分の事をどんどん嫌いになっていきました。好きだった仕事も嫌いになりました。生活は荒れていきました。そんな時に一人の女性に出会いました。その女性はそんな僕の事を好きだといってくれました。いつの間にか覚醒剤の使用は止まっていました。その女性と結婚をし子供も生まれました。環境は大きく変わりました。しかし病気になる事に変わりはなく再び覚醒剤を使っていました。使い方も前よりひどくなっていました。嫁に関心がなくなり子供にも関心がなくなって行きました。そんな自分を必死に隠していました。離婚をしても変わらずゴミだらけの部屋で覚醒剤を使い幻聴まで聞こえるようになってはじめてもうダメだと思いました。家族に覚醒剤を使っている事を言いました。そこからダルクでのリハビリ生活が始まりました。ダルクでの生活が始まって僕は外に出ていくのが嫌でした。覚醒剤を使って人を避けてきたので人に会ったり知らない所に行くことがすごく緊張しました。それでも仲間と一緒に行動していたら少しづつ慣れていきました。

毎日のミーティングでは、過去どうであったか、薬を使って何をしてきたかと言う事を話しました。正直に話す事はなかなかできませんでした。そんな時、仲間の話を聞くようにしてみました。すると仲間の正直な話に勇気を貰い自分も正直な話が出来ました。人に言えない様な事まで正直に話してみました。自分のしてきた事がだんだん分かってきました。同じことを繰り返している事に気づき、感情のまま行動しなくなりました。毎日運動をして体力がつかまりました。走る事は続けていたらどんどん走れるようになっていきました。走らなければどんどん走れなくなっていきました。毎日続けることが苦手な事に気づきました。コツコツ続ければ変わる事にも気づきました。

今までなにか問題が起きれば薬に逃げ、嫌な音があれば楽な方法で解決してきた自分がダルクで仲間と一緒に生活をシミーティングや運動を続けて言った結果、薬を使わずに一年という日を迎えることが出来ました。

これからも仲間の中での生活を続けて少しづつ変化していく事を楽しみに成長を続けていきます。

岐阜ダルクとの連携を通して期待するもの

岐阜保護観察所 企画調整課長 長尾和哉

NPO法人岐阜ダルクと岐阜保護観察所は、もともと個々の保護観察対象者を通じて連携がありました。昨年度、両者において組織的な連携ができないかという岐阜保護観察所長の指示のもと、連携の在り方を巡る話し合いがなされる中で、昨年12月2日、JR岐阜駅構内にあるハートフルスクウェアGにおいて、「薬物依存者の社会復帰に向けて」と題したパネルディスカッション（公開討論会）を共同で開催しました。これを受け、まずは、当庁において少年院や刑務所に収容されている者の家族を対象にした「家族会」を立ち上げることになり、岐阜ダルクの遠山代表とダルク家族相談室の繁原賢吉氏の協力を得て、平成24年3月から「家族会」を定期的に開催しています。

通常、矯正施設に収容されると、本人が申し出た帰住予定先に担当保護司が赴き、家族等に面接するのですが、多くの家族は、悩みや迷いを抱えながらも誰にも相談できない状態に陥っています。担当保護司において、精一杯、耳を傾けますが、事案に応じて、同じ悩みや迷いを抱く当事者同士が集まり、思いを語り合う「家族会」を案内しています。毎回、10ないし20名程度の参加者が得られ、遠山代表や繁原氏の豊富な経験談に触発されるかたちで、率直な思いをぶつけ合う場となり、時折、ハンカチを手握り締め、涙をぬぐう参加者もいます。会を重ねるうちに毎回足を運ばれ、出所後、本人にダルクでの通所プログラムを勧めたいという具体的な相談を始める参加者も散見されます。今後、当庁における「家族会」が自助グループのように成熟していくことが期待されることです。

一方、様々な事情があつて、やっとの思いで刑務所から出所しても家族のもとに帰ることができない受刑者が多数いますが、薬物事犯者も例外ではありません。行き場がない状態であれば、結局のところ、薬物乱用を通じて知り合った仲間のところに身を寄せる結果となることは、想像に難くないでしょう。全国の刑務所では、薬物事犯者に対し、特別改善指導が実施され、これにダルクのスタッフも協力し、出所後、ダルクのもとに身を寄せる例が出始めていますが、残念なことに女子の宿泊施設を有するダルクが全国的に少なく、刑務所で特別改善指導を受け、薬物依存からの離脱を目指し、様々なことを学んだとしても、出所後、行き場がないがゆえに、いとも簡単に昔の情夫のもとなどに舞い戻り、再び薬物に手を出してしまう悲劇を繰り返している実情が指摘されています。こうしたことから、岐阜ダルクでは、遠山代表が女性で、しかも、女子受刑者を収容している笠松刑務所における特別改善指導に携わっているという経緯も加わって、現在、岐阜県内において、女性の薬物依存者のための宿泊施設、いわゆる「女性ハウス」を開設しようというプロジェクトが立ち上げられています。本プロジェクトは、私ども更生保護関係者にとっても、誠に心強いもので、宿泊施設の開設や運営に当たり、できる限りの協力と支援を行っていますが、開設の暁には、一人でも多くの薬物依存者が希望を抱き、社会復帰に向けての道のりを着実に歩んでいくことを願ってやみません。岐阜ダルクの皆様の更なる奮闘を祈念致します。

10月8日(日)
岐阜市ふれあい
福寿会館にて

岐阜ダルク8周年フォーラム

テーマ

『こんなになっちゃった』

薬を使って

12ステップを
使って…

来て 見て 聞いて 依存症からの回復

ダルクに
つながって



今回集まった御祝金・寄付金
総額260,439円でした。
ご協力ありがとうございました



ダルクについてのQ&Aで今まで聞けなかったことが分かってとても好評で

今年も無事に8周年を迎えられたことを感謝いたします。
今回のフォーラムは過去葉でどうにもならなくなった仲間が、ダルクに繋がって、12ステップを使って回復していく姿を地域の人に見ていただきたいと願いを込めて開催いたしました。
当日も全国から沢山の仲間が集まって来て、地域の人も沢山お越し頂き、暖かい雰囲気になりました。今回のフォーラムでまだダルクに繋がっていない薬物依存者と家族の人もお越しくださいました。また苦しんでいる薬物依存者や家族の方がダルクに繋がる事が私たちの希望



こんなにたくさんの方が集まってくれました。参加された方から「大勢の方が見えて、皆さん薬が止まっていた方だ」という声も寄せられました。



司会が緊張する姿～



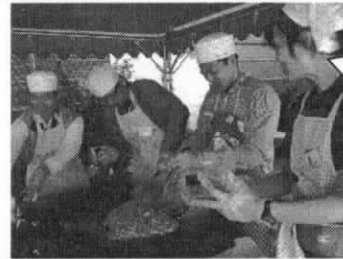
12ステップをつかっ
こんなになっちゃった

フォーラムアンケート結果

- ・ 始め入室した時は少しびっくりしましたが、お話をうかがう内に涙が出てきました。本当に、色々なお話が聞けて良かったです。皆さんのおかげです。早く娘に繋がって欲しいと思います。(50代女性)
- ・ 息子と参加しましたがスタッフが息子に声をかけてくれました。ダルクに繋がるとよいと思います。(50代女性)
- ・ BGMとても良かったです!!とても温かい雰囲気のフォーラムでした。(40代女性)
- ・ 今までの振り返った話を聞かせてもらってると皆本当に素直で本来は正直な人なんだと思いました。自分の子供も早くダルクに繋がって回復に向かってほしいと思います。(60代男性)
- ・ 薬物依存者本人の体験から回復とはどういう事か考えさせられる良い機会となりました。また1年前にお会いした方々が、見違えるほど元気になって変わっている姿を拝見してダルクが本当に薬物依存症にとって必要な存在であることを改めて実感しました。また来年お会いできるのを楽しみにしています。(30代女性)
- ・ 仲間と一緒に自分と向き合い、生きてみる姿は驚きでした。薬物依存について何も知らない自分を知ることが出来ました。有意義な時間でした。(60代女性)
- ・ Q&Aは大変良かった。今後とも是非やって頂きたい(70代男性)
- ・ ダルクの人の話はあまり聞く事がないので、生の声が聞けて良かった。本当に薬を止め続けていく事は大変だと思った。何度も挫折したりする中で仲間がいて、支えられることは普通の人以上に大切なんだと感じた。(20代女性)

10/21岐阜カトリック教会バザー手伝い

10/27かごと環境フェアバザーボランティア



おいしい焼きそばを
売りました♪

地域の人と触れ合いました
もう少しで完成だよ



クワイヤ1年バスター

11/1 月間依存症を学ぶ集い

名古屋ダルク家族相談室はフレーバー放送局で新番組『月間依存症を学ぶ集い』を立ち上げ、ゲスト出演しました。
詳しくは下記のアドレスをご覧ください。
<http://www.ustream.tv/channel/drc-chan>



皆に感謝
(*^.*^*)

皆様から頂いたタオルの献品が
全て売れました。
ご協力ありがとうございました



11/4一宮カトリック教会バザー

活動報告

- 10月
- 10日 薬物電話相談日 社会的居場所事業・会議
 - 11日 毎日新聞取材
 - 12日 野宿生活者支援ボランティア ダルク後援会会議
 - 13日 薬物電話相談日 レクレーション
 - 16日 笠松刑務所薬物離脱指導
 - 20日 京都ダルクフォーラム参加
 - 21日 岐阜カトリックバザー手伝い
 - 24日 笠松刑務所薬物離脱指導 丸ごと環境フェア
 - 27日 ベバ給筆作りボランティア 薬物電話相談日
 - 28日 日本キリスト教団中濃教会・活動紹介

- 11月
- 1日 ダルク後援会会議 月間依存症を学ぶ集い出演
 - 2日 ダルクスタッフ会議
 - 3日 一宮カトリック教会バザー手伝い
 - 4日 一宮カトリック教会バザー NA中部エリアオープンスピーカー
 - 5日 美濃更生保護女性会研修会
 - 6日 笠松刑務所薬物離脱指導
 - 7日 社会的居場所事業・会議
 - 8日 更生保護女性連盟西濃地区研修会
 - 9日 野宿生活者支援ボランティア
 - 10日 岐阜ルーテル教会バザー手伝い
 - 11日 岐阜ルーテル教会バザー
 - 12日 朝日大学・講演
 - 13日 保護観察所家族会
 - 14日 薬物電話相談日
 - 18日 笠松刑務所薬物離脱指導
 - 21日 カトリック五反城教会・活動紹介
 - 22日 笠松刑務所薬物離脱指導
 - 24日 薬物電話相談日
 - 25日 カトリック津教会・活動紹介
 - 27日 地域連絡協議会
 - 29日 ソロプチミスト40周年参加
 - 30日 中部更生保護委員会見学 ニュースレター印刷作業

- 12月
- 2日 岡崎カトリック教会・活動紹介
 - 3日 パネルディスカッション
 - 4日 池田神戸ライオンズクラブ例会
 - 5日 笠松刑務所薬物離脱指導
 - 6日 ダルク後援会会議 ニュースレター発送作業
 - 7日 岐阜経済大学地域経済研究所 公開講演会・講演
 - 8日 薬物電話相談日
 - 9日 大垣ルーテル教会クリスマス会
 - 12日 薬物電話相談日
 - 15日 香川ダルクフォーラム参加
 - 17日 依存症フォーラム (布池カトリック教会)
 - 18日 笠松刑務所薬物離脱指導
 - 22日 薬物電話相談日
 - 31日 NA中部エリアギャザリング参加
- 1月
- 1~2日 NA中部エリアギャザリング参加
 - 12日 薬物電話相談日
 - 21~22日 ダルク新年会
 - 26日 薬物電話相談日

ご協力ありがとうございます

※お名前に記載につきましては注意を払っておりますが、万が一お名前のご誤字・脱字または記載漏れなどございましたら、誠に申し訳ありませんが、ダルクまでご連絡をいただけますようお願い申し上げます。

■ 岐阜ダルク寄付金者名 (8月24日～10月16日到着分)

津山昇 美濃加茂カトリック教会・池田眞子 北野いつみ 同盟福音基督教会岐阜キリスト教会 菊池剛聡 小田直人 安藤平 山田七緒子 土岐保護司会 池田ひろみ 田口大輔 弁護士長澤清 池谷佳代子 浅井孝行 北谷雅春 須田裕子 仙田正子 鶴岡芳恵 立垣昭 加藤京子 弁護士神谷慎一 関美濃保護区保護司会足立勝 脇若保雄 土岐保護司会会長出口満知子 NPO 法人葉家連一同 家田重晴 池田時造 伊佐佐金剛 吉田和郎 養清興業株式会社 山田慶子 匿名者4名

■ 献品者名

藤田雅幸 柳原清盛 澤木幾佐 岡本敏孝

■ 女性ハウス寄付金者名 (8月24日～11月14日到着分)

緑キリスト教会 木曾川キリスト教会 多治見カトリック教会の皆様 小牧カトリック教会の皆様 日本キリスト教団中濃教会の皆様 鶴岡武彦 岐阜バプテスト教会 (株) 檜田那自動車・檜田那繁 ギャマンノン・さとみ 岐阜東ロータリークラブ会長・小林俊一 岐阜加納教会・西堀則男 フレーバーコーヒー 菊池剛聡 榊原千代子 宗教法人正順寺代表役員・小島良嶺 蜂谷文雄 青井初恵 北野いつみ 水野サヨ子 永嶋恵美 服部忠夫 福島春美 福島久生 弁護士・伊藤知恵子 仙田正子 日本福音ルーテル大垣教会 池田ひろみ 池谷浩司 佐名貞子 聖泉キリスト教会 須田裕子 もとす広城保護区保護司会会長・西尾敏彦 三嶋須磨子 安藤平 中北智久 三宅幸夫 北谷雅春 加藤京子 荒井庄司 梶川美喜子 直井文子 義村静子 佐藤邦宏 杉山賢 吉田正道 谷博久 森下宗四郎 古澤圭子 上田謙子 弁護士・神谷慎一 川北かおり 山田七緒子 朝守令彦 岡村晴美 鶴岡芳恵 脇若保雄 カトリック岐阜教会 弁護士・浅井直美 斎藤栄子 岡田喜美江 脇田富美枝 高橋厚至郎 藤村景子 大久保保那子 横川奎二 菅井昭胤 村山美千代 坪井克郎 栄一敏 園部須和子 池田時造 田口大輔 記野世幸 伊藤恵 石田正子 渡邊保幸 進藤富美子 長澤清 中村信行 伊佐佐金剛 土岐保護区保護司会 土岐地区保護司・山田直 多治見保護区保護司会 羽鳥保護司会会長・小塚清勝 郡上保護司会羽田野優男 加茂保護区保護司会会長森田金重 加茂保護区保護司会・安江奎、中西東峰、篠田洋、中山久司、佐藤英子、三品俊宣、宗教法人萬尺寺代表役員・島山泰元、加藤捐喜、加藤節三、山内良治、永田照代、杉山照子 中津川保護区保護司会 各務原保護区保護司会会長・カトウノリオ 関美濃保護区保護司会・辻克郎、清水宗夫、國光正宏、古田定昭、紀藤昌行、渡辺兼雄、尾口文良、水口勲、長尾嘉市、遠藤兵庫、小川哲秀、長屋長久、足立勝 岐阜山県保護区保護司会 岐阜山県保護区保護司会・浅野辰夫 海津保護区保護司会 下呂保護区保護司会 恵那保護司・東谷哲英 瑞浪保護区保護司会会長・安倍征示 可見保護区保護司会 揖斐保護区保護司会会長・竹中治通 浄土真宗本願寺派光・保護司楠洋子 不破保護司・田邊久子 岐阜保護観察所長・古川芳昭 岐阜保護観察所・長尾和哉 羽鳥地区更生保護女性会 吉田加代子 海津市更生保護女性会 大垣地区更生保護女性会会長・横幕津吉 郡上市更生保護女性会代表・名畑加代子 各務原市更生保護女性会・多和田弘子 養老地区更生保護女性会会長・内藤妙子 (信子) 高山地区更生保護女性会会長・桐山恒子 関地区更生保護女性会 多治見地区更生保護女性会会計・村井薫 岐阜市更生保護女性会 中津川市更生保護女性会会長・近藤美保 不破地区更生保護女性会 下呂市更生保護女性会 揖斐地区更生保護女性会 可見地区更生保護女性会 土岐地区更生保護女性会・安藤裕美 榊垣和枝 瑞浪更生保護女性会の会長・日比野和子 森弘子 加茂地区更生保護女性会 永嶋恵美 カトリック美濃加茂教会福祉課・三嶋百合子 久保田芳則 日本福祉大学・木村隆夫 匿名2名

※発送作業簡略化のため皆様全員に振込用紙を同封させていただいておりますことをご了承下さい。また匿名希望の方は、恐れいたしますが、その旨を振り込み用紙通信欄にその都度ご記入下さいますようお願い致します。
 ※岐阜ダルクの運営はみなさまがたの寄付金によってまかなわれております。月額で35万円程度必要としております。どうかご理解とご協力をお願い申し上げます。

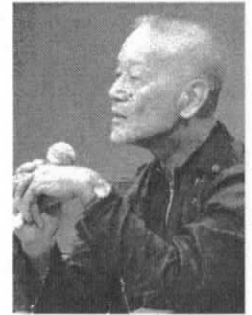
※ 岐阜ダルク 郵便振替口座 00840-5-167752 岐阜ダルク後援会

※女性ハウス設立には施設賃貸料・什器備品等で350万円程度必要です。なにとぞご理解とご協力を願いたします

※女性ハウス設立準備基金 郵便振替口座 00820-3-207230 女性ハウス設立準備委員会

岐阜ダルク感謝の年に

岐阜ダルク開設スタッフ
外山憲治



冴えた陽が年の瀬を見守る12月になりました。この一年間岐阜ダルクを支えてくださいました方々に心からお礼申し上げます。ありがとうございました。ここ岐阜市の繁華街柳ヶ瀬にもイルミネーションが灯りクリスマスソングが流れ始めました。早いものですネ。私の方は相も変わらず空を見上げ「風が見えないものか?」と注視しながら、銭湯のボイラー室の片隅でパーペル運動にいそしみました。時々やり過ぎて、はたと気づき一人ほくそ笑んでいます。岐阜ダルクの活動も念願だった女性ハウスが来春には開設できそうな雰囲気になってきました。まだ場所も決まっていませんし運営資金も乏しいのですが、必要だったらその時期に大きな力が働いて開設の運びになると信じています。本当にこの一年間岐阜ダルクを支えてくださりましてありがとうございました。来る2013年が皆様にとって健やかで彩りに満ちた年でありますよう心から祈念いたします。



編集部より

岐阜ダルク後援会
鈴木輝一郎



☆ページ構成を一部変更しています

みなさまからの献金・献品・岐阜ダルク女性ハウス設立準備へのご寄付、ありがとうございます。今号はお名前をしるしきれず、御礼を7ページに移動させていただきました。ご容赦ください。

☆岐阜ダルクの活動内容を動画で報告しています

平成23年9月からYouTubeで岐阜ダルクでの活動内容の動画配信をはじめています。アクセス解析などから、岐阜ダルクの活動の告知に役だっている模様です。

昨年12月に岐阜ダルクの活動費の残高が700円（7万円ではありません）を切ったとき、「緊急のお願い」をYouTubeで流し、Twitterで拡散したところ、多くのみなさまの緊急支援をいただきました。ありがとうございます。

今後も引き続き動画を一般公開してゆく予定です。『岐阜ダルク 動画』で検索をおかけください。

☆ホームページを引越しました

一時期リンク切れをおこしていましたが、リニューアルして公開をはじめています。

<http://softopia.gifu-keizai.ac.jp/~darc/>

☆岐阜ダルクでは講演講師の派遣をしています

岐阜ダルクでは高等学校などの学校や青少年育成会議などの地域集会、保健所などの行政機関等へ、薬物依存症者の体験談による講師派遣を行なっています。詳しくは岐阜ダルク 電話・058-251-6922 までお問い合わせください。

女性ハウス設立準備基金 11月末で2,704,758円集まりました。

目標金額残り795,242円です。

どうぞ続けてご支援くださいますようお願い申し上げます。

※女性ハウス設立準備基金 郵便振替口座 00820-3-207230 女性ハウス設立準備委員会

女性ハウス（仮称）物件情報のお願い

女性薬物依存症の仲間が6名ほど入寮できる物件で岐阜駅から
徒歩30分圏内の空き家もしくはマンションを探しています。皆様から
情報をいただいておりますが、なかなか契約まで至らないのが現状
です。ぜひ、よい情報を岐阜ダルクまでお知らせください

連絡先 岐阜ダルク 施設長 遠山 TEL 058-251-6922

編集 特定非営利活動法人 岐阜ダルク

編集担当 岐阜ダルク後援会 齋藤幸二 鈴木輝一郎

〒500-8175 岐阜市長住町7-3 TEL/FAX: 058-251-6922

Email: gifudarc2004@yahoo.co.jp

ホームページ: <http://softopia.gifu-keizai.ac.jp/~darc/>

2012年 岐阜ダルクニュースレター平成24年冬号 (No.38)

定価 1部 200円

編集責任者 遠山 香

発行所 東海身体障害者団体定期刊行物協会

名古屋市中区丸の内3-6-43 みこころセンター